

日本とつながりの深い街 大連

大連日本人学校 今本洋介

(平成21年度派遣 赤磐市立吉井中学校所属)

「満州」と言えば聞いたことがある人も多いだろう。その満州こそが大連である。かつて多くの日本人が満州で生活したことからも、中国の中では日本とのつながりが大変深い都市である。日本と関わりの深い大連だからこそ、日本の多くの都市と姉妹縁組を行っている。また、日本語を学ぶ人が一説には約20万人いるとも言われ、街には流暢な日本語を話す人が驚くほどたくさんいる。

大連は中国東北部、遼東半島の南端に位置している。気候は、平均気温が11.4℃と過ごしやすいと言われるが、冬には-10℃前後の日々が続くことと海からの寒風で、岡山と比べるとかなり寒いと感じる。

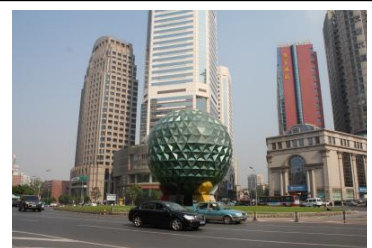
大連の街には今でも日本人が建設した建物がたくさんあり、保管されながらホテルや銀行として大切に利用されている。しかし、街全体は、中国の他の都市と同様に凄い勢いで発展を遂げ、高層ビルやホテル、マンションが次々と建設されるとともに、地下鉄の開通も間近に控えている。また、ユニクロや日系のスーパー、IKEA など欧米系のおなじみの店舗もあり、生活の不便を感じることはほとんどない。最近では、自動車が増え、朝夕の渋滞も激しさを増している。そんな発展目覚ましい大連であるが、人々は親しみやすく、タクシーに乗れば運転手から気さくに話しかけられ、夏になると老若男女を問わずに、道端に出て夕涼みをしながら和気あいあいとしている。そんな姿を見るとかつての日本がそうであったことを思い出し、大連ではいつまでもこの光景が続いて欲しいと思ってしまう。



過去と現在が混在する街並



建ち並ぶ高層ビル



大連の街のシンボル

大連は、中国でも有数の港と国際空港を有し、貿易の拠点となっている。そのため、日系企業では、約4000社が大連に駐在している。また、日系企業以外にも多く、インテルが大規模な半導体工場を建設し、生産を開始するなど、世界各国の企業が集まっている。

このような大連において、大連日本人学校は今年で開校17年目の学校である。大連市の中心部から少し南に位置し、教室からは黄海を見渡すことができる自然に囲まれた学校である。

大連日本人学校には、小学部と中学部があり、さらに付属幼稚園も併設されており、小学部171名の児童、中学部35名の生徒、幼稚園65名の園児の計271名が毎日元気に登校、登園している。現在は、児童生徒数が増加傾向にあり、今年度から小学部2年生と4年生が2クラスで生活している。



教室から見渡せる黄海

大連日本人学校は、幼稚園の年少園児から中学部3年生までが一緒に生活しているため、縦割り班で活動する行事がたくさんある。そのような行事では、中学部の生徒が班長となり、幼稚園児や小学生のお世話をすることが多いため、中学部の生徒たちには気配りができて心優しい生徒が多く、学校全体に笑顔があふれている。



縦割りでの行事

また、運動会やマラソン大会、校外学習、小学部の学習発表会や中学部の総合的な学習の時間発表会、現地校との交流、キャリア教育講演会など様々な行事がある。これらの行事についても、海外での学校行事だからこそ、一つ一つの行事が日本国内以上に大切に引き継がれ、多くの方々の協力によって行われている。そのため、どの行事でも児童生徒の成長を実感することができ感動的である。行事が終わるたびに、これらの行事はこれまでに大連日本人学校に関わったすべての人の思いによって次へつなげられている伝統であると感じる。だからこそ、その伝統に一つでも二つでも自分のエッセンスを加えることができればと思うことが、日々の仕事への意欲につながっているのだと思う。



運動会での組み体操



現地校との交流会



校外学習で ODA 施設見学

私自身、大連日本人学校に赴任して2年半が過ぎた。今年度は、派遣中2度目となる中3の担任をしている。中学校教員である私にとって帰国生の進路や受験の現状、日本全国にある高等学校や各都道府県の入試制度、海外のインター校などについて知ることができたことは本当に勉強になった。派遣一年目に担任した中3での経験を、現在担任している中3の生徒へ還元すべく日々の学校生活を送っている。これも、一年目に担任した中3の生徒との生活から教えてもらったことを、次の世代へつなげるということだと思う。もうすぐ受験本番を迎えるが、今後も生徒をしっかりサポートしていきたい。

2011 年 11 月